

「ことば」の意味するもの

小見川香代子（薬剤師）

自閉症について、この番組を見ることで理解が深まったが、NHKのお二人の話を聞いて更に深く考えることができた。

お二人の話の中で「ことば」というキーワードが何度も出てくる。言葉に引きつけられると話されたことに、興味を持った。

「言葉を浪費している。

言葉を軽く使っている。」

言葉について、正しく正確に理解し、発信していることが新鮮だった。

画家は筆や絵の具を道具とする。音楽家は楽器を、踊舞家は自分の身体を道具に使う。

そういう意味では、「ことば」は道具のひとつだ。

感性を表現するひとつの道具である。

道具の特性を知らなければ、表現することができない。

朝日新聞記者の大久保真紀さんは相手との関係を作るために自分の特性と距離感が必要だといった。

ゆきさんのように和やかに、真実を聞き出すこと、大久保さんのようにはっきりしているが、引き際もわきまえていること……

「ことば」を使うには、表現力が必要だと実感した。

東田さんは、「ことば」の意味するところをとことん追求する。

それは、相手との距離のとりかたがわからないからだと思う。

「ことば」という道具に、執着するのはそのせいではないだろうか。

「ことば」が自分の思いを伝える重要な道具であるならば、東田さんの”言葉の浪費”という話は、伝わらない使い方をしているということだ。

意味もよくわからずに使っている言葉が多すぎると、自分自身も反省する。

「自由」という言葉について考える。

人はどのようにこの言葉をとらえるのだろう。

解放されること、しがらみから抜け出すこと……

その傍ら、責任を持つこと、勇気を持つこと、自信をもつことが必要なのではないだろうか。この講座を聴くと、そう実感する。

言葉の本当の意味を理解することは、それぞれの人の経験と想いが生み出すものなのかもしれない。言葉をつかって表現することは、芸術なのだと気づいた。

プロフェッショナルであるために

小見川香代子

大久保さんの話を聞かなければ、記者という仕事を理解することができなかつた。

記事というものについて、偏った情報、歪められた真実・・・どうしてもそういう見方をしてしまう。

真実を伝えること、多くの人々が興味を持つように伝えること、それには時間と忍耐力が必要であることを知った。

人間関係が希薄になっているこの時代に、あえて目をむけ、関係を作っていくその過程には、どれほどの困難があったのか計り知れない。

だからこそ、感動する。

関係を作るが同化しない、限りなく近くなる・・・
客観的な視点をもつというプロ意識に感服する。

仕事をするということは、そういうことなのかもしれない。

誠実であること、信頼されること、どんなときでもぶれない信念をもつこと、

プロであることを忘れないこと・・・

そういうカッコいい姿に、あこがれる。

自分もそうありたいと思う。

自由であるということは、自分のすべてに責任を持つということだと思う。

ぶれない思いを持つためには、孤独とも友達にならなければ進めない。

Antifragil：衝撃を与えると利益が出るもの・・・

悲嘆を超えて新しい自分を見つけること・・・

孤独という衝撃は、いつしか多くの支援を得るための始まりなのかもしれない。